多元的資源管理型漁業推進事業
あなごかご漁業資源管理実践調査

沖　大樹・中島博司・山田且浩・久野正博
鈴鹿水産研究室

目　的

伊勢湾・三河湾資源回復計画により小型底びき網漁業は10～11月には全長25cm未満のマアナゴの水揚げが禁止されている。しかし，マアナゴを専獲するあなごかご漁業については制限が設けられていない。

本調査はあなごかご漁業における漁獲物や操業に関する知見を収集するとともに異なる目合のかごを用いた試験を行い，小型魚混獲回避に有効な目合を検討した。なお，資源評価調査事業による小型底びき網漁業で漁獲されたマアナゴに関する知見も併せた。

方法および結果

1）漁獲物実態調査　鈴鹿市漁協若松支所(以降，若松地区と称す）および 鳥羽磯部漁協桃取支所（以降，桃取地区と称す）に所属するあなごかご漁船で漁獲されたマアナゴを生物測定した。若松地区では20節，桃取地区では18節目合のかごが用いられている。名古屋港周辺を漁場とする若松地区の漁獲物の主体は300～400mmTLで，250mmTL前後の小型個体は10月に出現した（図１）。答志島周辺で操業する桃取地区では250mmTL以下の個体はみられず，400mmTL以上の大型個体がほとんどの月で出現した（図２）。両地区における小型個体の漁獲の有無は目合の選択性による可能性が高く，大型個体の漁獲は漁場によると考えられた。資源評価調査事業で実施した桃取地区の小型底びき網漁業（以降，小底と称す）の漁獲物は同地区のかご漁獲物に比べ小さく，270～370mmTLの個体が多かった（図３）。また250mmTL未満の小型魚は11月に出現した。有滝地区の小底漁獲物もかごに比べ小さく，300～400mmTLの個体が主体であった。250mmTL未満の小型個体は11，12月に出現した（図４）。

2）操業実態調査　平成16年度の若松，桃取および有滝地区の漁業種別マアナゴ漁獲量および金額，出漁隻日数（桃取地区を除く）を調査した。

若松地区の漁獲量はかご4.8トン，小底9.3トンで，水揚金額は960万円および1860万円であった。出漁隻日数はかごが108日，小底が528日であった。かごの出漁日数は前年度の半分以下であった。桃取地区では，

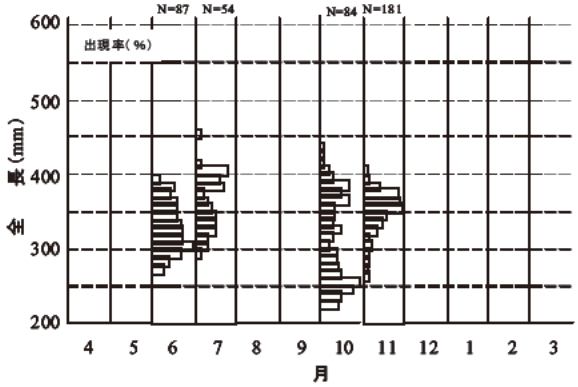

図１　あなごかご漁業漁獲物全長組成（若松地区）.

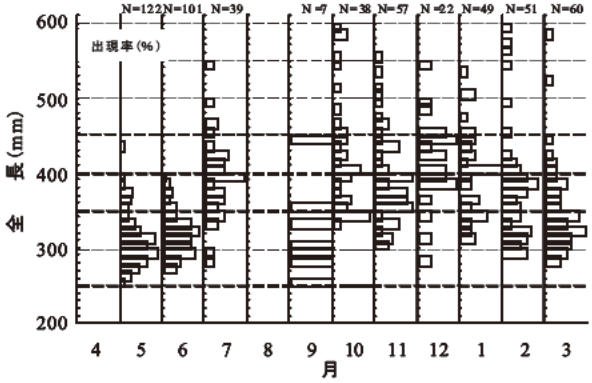

図２　あなごかご漁業漁獲物全長組成（桃取地区）.

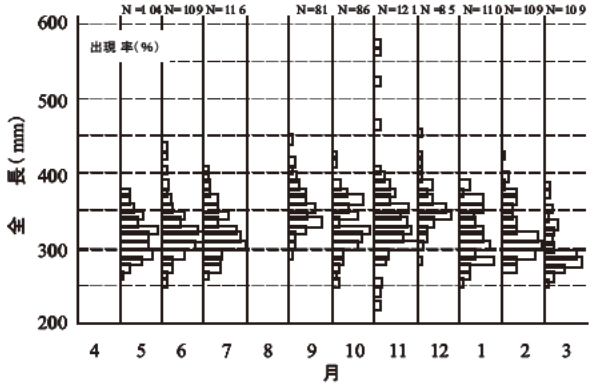

図３　小底漁獲物全長組成（桃取地区）.

かご4.3トン，小底6.6トンの漁獲があり，水揚金額は約480万円および570万円であった。有滝地区の小底では漁獲量は約42トン，金額は4700万円であった。なま

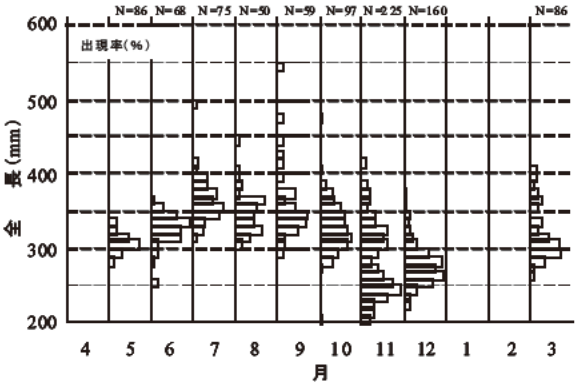

図4　小底漁獲物全長組成（有滝地区）.

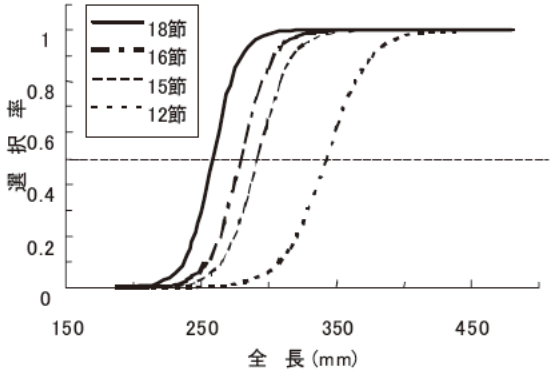

図5　改良漁具試験で漁獲されたマアナゴの全長組成.

こ桁網に転業する１～３月を除くと小底の年間総出漁日数は2086日であった。

３）目合選択性試験　伊勢湾産マアナゴのあなごかごの目合選択性を得るため，４種類の目合（18，16，15，12節）のかごを用いた試験操業を実施した。平成15年度から実施した計９回（平成15年６月～平成16年６月）の調査結果から，求めた網目選択性曲線マスターカーブによれば各目合の50％選択全長は260mm（18節），280mm（16節），290mm（15節）および340mm（12節）と推定された（図５）。

４）葉形仔魚混獲調査　イカナゴ船びき網漁業で混獲される葉形仔魚の水揚状況を調査した。また，種査定，PAM/TM比による変態ステージ区分を行い，漁期中の変態ステージ別の出現状況を調査した。平成16年３～５月に県内主要港に水揚された葉形仔魚は約27トンで，水揚金額は約3700万円あった。この混獲量は平成14年（66トン），15年（60トン）のおよそ半分であった。

　種査定した2020個体は全てマアナゴであった。採集日別のPAM/TM比による変態ステージ区分では，３～４月に混獲される個体は葉形仔魚期および変態前期が多く，変態後期個体の出現率は５月に高かった（図６）。

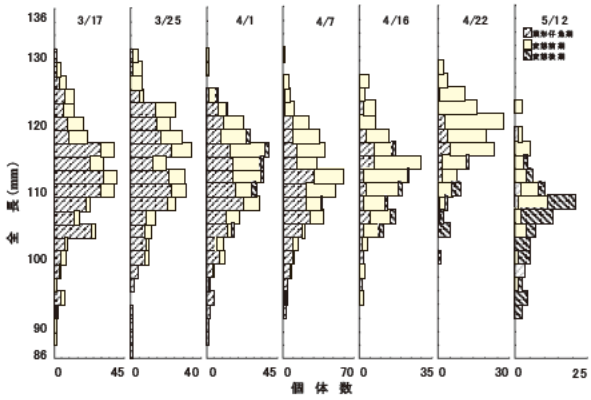

図6　各変態ステージの出現率の推移.

関連報文

三重県(1993)：平成４年度資源管理型漁業推進総合対策事業報告書（地域重要資源）

三重県(2003)：多元的資源管理型漁業推進事業－Ⅰアナゴ籠漁業資源管理実践調査．平成15年度三重県科学技術振興センター水産研究部事業報告．